

第1回ウィズあかし運営委員会
「市民みんなで作るウィズあかしを考える会議」議事録

平成30年8月20日(月) 17:00~20:15
複合型交流拠点ウィズあかし学習室 803

1. あいさつ(事務局)

委員就任のお礼。

2. 自己紹介

各委員より日頃の活動の紹介や運営委員会に参加しようと思った理由が話された。

(別紙委員名簿参照)

3. ウィズあかしのあゆみ(事務局)

事務局より指定管理者制度導入に至るまでの経緯、および制度開始後からこれまでの歩みについて説明。(別添資料参照)

4. 議題

1) ウィズあかし運営委員会の役割について(事務局)

任期2年。基本的に年2回開催の予定。

運営委員会の市民活動部門については委員への応募が多かったため、応募者による分科会(7月24日開催)を立ち上げた旨を説明。

2) 市民活動部門分科会について(市民活動部門委員)

ウィズあかし設立前より、市民活動の在り方検討会議にて市に提言書を提出するなど、市民活動団体のウィズあかしへの思い入れは強い。

市民活動団体はジャンルが広く、個々の要望は様々だが、共通した意見としては以下のとおり。

①情報発信を強化してほしい。具体的な提案が欲しい(ケーブルTVでのCM等)。

②つながるしなげを作してほしい。この運営会議にまち協の関係者が参加していないことが残念。地縁団体とつながるしくみが欲しい。

③現状のイベントスペースよりも使える範囲を広げられないか。

出来る出来ないはあると思うが、一度、検討してほしい。

3) 各委員よりウィズあかしへの質問（事務局回答）

（委員）

利用者は明石の東部在住が多いのか？

⇒市外の利用者も多い。

（委員）

「ウィズあかし」は8階だけ、生涯学習センターだけを指すのか？市内全域を指すのか？

⇒現状ではアスピア明石7～9階と認識している。

（委員）

平成28年の来館者数は？

⇒H28までは貸室利用者の総数しか記録されておらず、正確に比較できないが、稼働率も上昇しており現場の実感としては増えていると思われる。

（委員）

利用率の上昇は喜ばしいが、今後、数字については目標設定が必要では？

⇒データにより状況がクリアになってきたのが29年度からであり、具体的な目標設定は今後の課題と考えている。

（委員）

図書の管理方法、運営方法は？

⇒これから運営ボランティアを募集し、新たな取り組みを進めていく予定。

「広報紙with」はもっと複合的な内容にならないか？

⇒今後、団体紹介など内容を充実させていく予定。

4) 各委員の意見発表

以下の2点について委員にワークシートにご記入いただいた。

テーマ ①ウィズあかしに期待すること

②こんなセンターだったらいいな

テーマ①ウィズあかしに期待すること
<ul style="list-style-type: none">・ウィズあかしと明石市との違いが分かりにくい。・明石市内の知的リソース、コンテンツの HUB。・明石ならではの企画運営の質を大切にする。・学んだ人が主役となり新たな学びを創る場。・3センターを指定管理に出した、行政（明石市）の委託仕様内容は示されていますか？それともコミ創に「丸投げ」ですか？・情報を集約し、残し、次へ繋いでいく機能を持つ。 (参加団体・他市資料など)・分野型団体（人）と地縁型団体（人）の交流、そして事業を創る。・誰もが何ができる場所なのかがわかり、行きやすい場所であってほしい。・「ウィズあかし」のイメージがもう少しわかりやすい内容とならないか。・指定管理者制度（民間）となり、どんなクレームがあるのか、そこを修正・改善していけば、りそうに近いセンターになるのでは。・伝える力（パワー）が大きなセンターになれば。・活発にコラボができる。・ウィズあかしに来れば、明石市全体の市民の活動の様子がわかる。・8階に来れば、7・9階にも立ち寄りたくなるしかけ。・中高生の癒し（憩い）&学びの場になってほしい。・中学生、高校生、大学生も来館、利用しやすいセンターに。 (コンテンツ・PR等広報、読書・学習用スリースペースなど)・男女共同参画センターの対象がこれまでずっと女性ばかり。男性対象の相談が必要。・幅広い層が共有（シェア）でき、「この場所があって本当に助かる。よかった!」という市民の場所。

テーマ② こんなセンターだったらいいな

- ・はじめての人にもわかりやすい、使い勝手のいい場所。
- ・民間のコネクトさんのように様々な民間と連携していく。
- ・アイデアソン⇒クラウドファン্ড。
- ・市民活動団体同士でほめあう賞のようなもの。
- ・まず知り合うことから。
- ・出会い⇒気づき⇒人づくりへ。
- ・要求（ディマインド）課題対応。
- ・必要課題（ニーズ）対応へ、力を発揮するセンターに。
- ・地縁団体との共同事業。
- ・就学前の親子が支援センター同様使用できるようになれば。
- ・貸室の料金も大切ですが、参加費は主催者が決められるといいな。
- ・会員間でフランクに話し合えるようになったら。（相談・情報交換）
- ・思わず参加したくなるような紹介展示の活用。
（通りすがりの市民も手を加えられるとか）
- ・パピオス明石のユーススペースとウィズあかしのフリースペースの差別化。
（開館日時や利用目的）
- ・高校生への認知度向上。
- ・PR する場や方法の工夫。
- ・学生が集まって新しい活動を起こしても起こさなくてもいいサロン。（イベントではなく日常的に）
- ・新しい、若者、よそもの、改革を地元の先輩が後押しし協力する。今までこの明石を支えてきた人の知恵と蓄積を次世代に継承する。お互いに知り合う。校区⇄中心。

5) 意見交換

(事務局)

ここからは、各委員のご意見をいただきたいと思います。

(委員)

子育て世代のウィズあかしの知名度がまだまだ低い。就学前の子どもも対応できる場になってほしい。明石市は色々子ども施策を打ち出しているが、もっと身近なものが欲しい。

運営委員会は年2回では具体的な案には至らない。委員会以外でもいいのでもっと議論できる場があった方がいい。

(委員)

ウィズあかしがどんな場所で何ができるのかを市民は知らない。伝わっていない。一般的にウィズあかしは「活動している人のための特別な場所」という認識。興味がない人にはただのハコモノ。以前、起業を考えている友人がどうしていいかわからず困っていたので、「女性のためのチャレンジ相談」を紹介した。相談できる場所があるということ、なにかを始めようとする人にもっと知られるべきではないか。もっとわかりやすく、やさしい言葉で伝えられたらいいと思う。

私の所属する NPO 団体の活動拠点はここよりも西にあるが、大きな講座を開催する時にはウィズあかしを利用している。貸館としては便利だと感じている。

(委員)

大阪の総合生涯学習センターで仕事をしているが、生涯学習センターというのは一部の人、生活に余裕があり、恵まれている人向けのものと思われがちである。ただ、何かあったときに相談できるような頼れる存在でありたいと考えている。そのための情報発信の方法はいまだに大きな課題である。色々な方法を試しているが、中でも影響が大きいのは口コミであると感じている。また、この運営委員から発信していくことも可能だと思う。なにより市内外からこれだけの来館者があることが、大きな力になるのでは。

(委員)

社会教育、生涯学習に関わってきた立場から申し上げたい。

3つのセンターを預かり指定管理しているとのことだが、行政からの仕様書はどうなっているのか。できるだけ自由に提案し運営していいという方針のように見受けられる。しかし、男女共同参画センターは内閣府、生涯学習センターは文科省に国の施策や法律がある。一方、市民活動支援センターの設置は明石市単独。そもそもの成り立ちが違う。この3つを一緒に運営することはかなり難しいが、とらえようによってはとても面白い、いい使い方ができると思う。

しかし、あえて課題を挙げたい。金と時間に余裕があり、健康と家族に恵まれた人だけが集まるセンターを作ってどうするのか、若者や一人暮らしの人、生活に余裕のない人、健康に不安のある人たちはそう思っているだろう。本来は、そういう層こそが来館し、啓

発され、友達をつくり、チャンスを得られる場であるべきである。「あれをしろ」「これをしろ」と要求課題にだけ対応し、利用率だけを追い求めてはポピュリズムに落ちるだけである。その矛盾を行政とよく話し合っておくべきだ。

生涯学習のメインコンセプトは個人的自己決定能力を確立するための講座、その次に集団的自己決定能力の確立のための講座を行うことであった。それが、いつの間に余暇対応のお楽しみ講座に化けたのか。この傾向はいったん脱却しなければならない。しかし一方で楽しくなければ人は集まらない。楽しいことで惹き付けられた人が、来館ついでに興味がなかった男女共同参画のを知るなどのしかけが必要。「私にもこんな楽しみがあったんだ」というのも個人的自己決定能力の一つである。よって個人の楽しみを広げるとは否定しないが、それだけにとどまってはならない。その先に社会的少数者ための必要課題に向けた事業を打たなければならない。そのためには調査が必要。来てくれる好意的な人ではなく、来ない人、認識していない人、あきらめている人に向けたアンケートを実施すべきである。そうでないと暇・金・体力・家族に恵まれた人の殿堂になってしまう。それを克服するのに、3つのセンターが一緒になっているのは手段としていいと思う。

市民活動支援センターの役割については、コミュニティ型（地縁型）の市民活動団体の継続的な支援体制をつくってほしい。地縁型の市民活動団体に関わりたい人は多くいる。一方、地縁型の団体も、活動を助けてくれる、あるいは後継者になる人材を求めているので、マッチング機能を発揮してほしい。コミュニティ創造協会はコミュニティ型の団体の計画作成の支援をしているとあったが、それだけでは継続性がない。ファシリテーターやコーディネーターなど計画づくりができる人材、コミュニティに立ち打ちできる人材の育成が大切。コミュニティ型、アソシエーション型（NPO型）、両方の市民活動のバランスが取れてこそ住民自治は強くなる。市民はどちらか好きな方に参加しても、行き来してもいい。選択の余地を増やしてほしい。

市民活動支援センターはコミュニティ型の支援にもっと食指を伸ばした方がいい。アソシエーション型の支援に特化しがちなのは神戸もそうだが、現実に活動人材を求めているのは実はコミュニティである。そういう点で、市民活動支援センターは両方を相手にした方がいい。

男女共同参画センターについては、現状、うまくいっているとのことで文句はないが、地域活動をされる方々、小学校単位での住民自治協議会におられる方々には絶対に女性に対する人権研修を受けていただきたい。障がい者に対する対応も練習してほしい。在留外国人との付き合いもしてほしい。超高齢者・子どもに対するコミュニケーションの訓練も必要である。「女子どもは黙っている」という自治会長がいるようでは駄目。そういう人材がいる限り、このセンターの役割にはもっともっと課題があると言わざるを得ない。男女共同参画センターを持っていることは非常に大きな強みである。

災害対策、避難訓練をしてみれば、弱者への差別ははっきり表れる。口でいうだけでは駄目。洗濯はどうする煮炊きはどうするトイレはどうする。「非常時にそんなこと言うな」

という男性ばかりでは女性は避難できない。それがコミュニティの現実。コミュニティの方々に人権の研修を行うのも、このセンターの役割である。

お楽しみもいいけれど、それだけでポピュリズムに落ちては意味がない。何のために公金を使っているのか。行政に対してはそれくらいの交渉材料を持っていてもいい。

(事務局)

ありがとうございます。

現在、セミナーの情報はまちナビあかしのサイトに載せており、例えばLGBTの講座と一緒に地域の情報も見られるようになってきました。男女共同参画の分野はこの間も「40代の非正規雇用の子どものいない独身女性」対象の講座を実施するなど、違った切り口も模索し始めていますが、市民活動や生涯学習においては、まだ市の直営の時から事業を引き継いでアレンジしている段階で、新しい展開にまでは至っていないのが実情です。

(委員)

情報発信というが、誰にPRするのか。発信しても相手に受け取る意識がなければ無意味である。私は民生委員として活動しており、サロンもしているが、いくら声をかけても自治会回覧を回しても見ない人は見ない。高齢者でも新聞を取っていない層も多い。

来れる人はPRしなくても来る。来てほしい人は手を引いて、坂があるなら車を出して、そこまでしないと来ない。その現実を見ている私としては、ウィズあかしは人が集まっている方だと思う。

若者はネットで情報を手に入れるようだが、一部の高齢者は情報から遠ざかっているというか、それで生活の質が落ちても、興味そのものがないのでは。

(委員)

大きな目標や理論も重要だが、実際に活動している側としては、実務に落とす段階のスキルや組織づくりが未成熟であると感じている。この場ではそれぞれの立場でひとつひとつ、共通点を見出したうえで、施設の使い方や広報等、テーマを絞った議論が必要では。

(事務局)

ありがとうございます。今回いただいたご意見をもって、これから議論すべきテーマを絞っていきたいと思います。

(委員)

私もイベントで利用しているが、ウィズあかしの使い方を知らない人が多い。「こんな使い方ができますよ」というお試し制度や学校等に出向いてのPRがあればいいのでは。

(委員)

情報が届かない人がいるのは事実だが、実際に本当に困っている人がいて、その人に情報が届いて助けになることは大切なのでPRは必要。

(委員)

学生から見るとウィズあかしは穴場である。勉強するとか話すとかならパピオスに行く。ウィズあかしの特色である、生涯学習・男女共同参画・市民活動へ若者がコミットし

やすい工夫が必要。例えば、QRコードで講座内容を読み込めるなど。

(委員)

そもそも学生は校区外へ出にくいし、勉強や部活で忙しいので、ウイズあかしへ関わりを持つよう促すのは難しいが、それでも人材育成の観点から学生へのアプローチは必要。明石市は子どもと高齢者には手厚いが、その間の層へのアプローチが少ない。引き継ぎたくても引き継げない。情報を広げるにもその層を考慮してほしい。

お話を伺っていると、市民の自主性を重んじているとのこと、それはいいが、ウイズあかしがどういう軸を持っていて、地域の中で何をしたいのかがはっきり見えた方が利用しやすいし、意見も出しやすいと思う。

(委員)

私は、ドーンセンターで女性問題の本やセミナーに出会い、その後、県の男女共同参画センターを知り、親子問題やアサーティブなどにも興味を持ち、男女共同参画センターきっかけでウイズあかしに行くようになり、生涯学習の催しにも参加するようになった。

神戸に生まれ、明石に住むようになって10年だが、明石は長く地元にいる人たちの力、地域や自治の力が強すぎて、地域活動へなかなか入っていけない。さらに明石は130もの市民活動団体があり、長い歴史があるが、それと創造協会の若いスタッフが行っている取り組みがクロスしなければもったいない。例えばファシリテーションやボランティアの講座を実施して、若いボランティアを集める取り組みを各団体に向けて打ってはどうか。

また、本当に深いところ、解決すべきところ、困っている人に向けた活動ができているのか。今のウイズあかしはイベントをし団体が寄ってきて「かこむ」に近い印象だが、全容が見えない。例えば、本ひとつをとっても、あかし市民図書館との差別化が必要。「なんでもある」は難しい。ここにしかない、惹き付けるものが必要では。

昔からの団体の歴史を知り、それに若い層を取り込んで、お互いにいいコミュニケーションが取ればいい。ウイズあかしと校区の活動が結ばれていない。明石市全体の全容が見えない。

(委員)

地縁型のボランティアとまち協とのつながりはある。しかし今は団体が個々で行っている段階。市の方針は立派だが、一方で現場は現場でそれぞれが動いている。戦略が現場で戦術になるしくみ、組織化が必要。

(委員)

そのためのファシリテーションなどの講座をウイズあかしでやってもらえたら。

(委員)

市民活動団体、まちづくり協議会両方に関わっている立場からの意見を言わせていただくと、外部の人はまずは地域の中に入り、2回でも3回でも関わり、地元の事情を知る必要がある。

学生を取り込むということ言えば、ホームページにまちづくりに関するボランティアの募集告知を載せたら、ひとりの学生の応募があり、他の学生も呼んでくれ、現在、数人の大学生がまちづくり協議会の活動に参加している。PRも何がひっかかるかわからない。個人が情報を得る努力をすることは必要だとは思いますが、何も発信しないと始まらないので、色々な方法を試してみてもどうか。

(事務局)

今、コミュニティ創造協会では、地縁型の組織の支援に関しても、従来の「色々なことを知っていないと入れない」という状態から、少しずつ多様な方々が入れるような組織作りに取り組んでいます。まだまだ、そうではない部分も多いですが、できるだけ繋がり混ざり合う形が必要と改めて感じました。

今日、運営委員の皆様からご意見をうかがった問題点は、ひとつはPRをどうするかということ、さらに、どういう方に向けた事業や取り組みを行うかということでした。今後、さらに皆様のアイデアやご提案をいただきながら進めていけたらと思います。

初回ということで、知っていただくための説明が長引き、十分に議論が深まらなかった点をお詫びいたします。明石にお住いの皆様なので、日常的に関わっていただきアドバイスをいただければありがたいです。

(事務局)

長時間になりましたして申し訳ございません。次回からはもう少し、事前に各委員の方々と打ち合わせし、意見交換の場で議論をしていきたいと思っております。今回は、我々事務局に対し、多くの宿題を頂戴したと思っております。